

第3部 水源環境保全・再生施策の総合的な評価（中間評価）

施策の点検・評価の役割を担う県民会議では、総合的な評価（中間評価）として、事業の実施状況（事業費、事業量等）や県民会議で設定した指標による評価、評価の流れ図における統合的指標（2次的アウトカム）ならびに施策全体の目的（最終的アウトカム）による評価など、特別対策事業を中心にこれまで神奈川県が実施した水源環境保全・再生施策について多面的に評価を行いました。

施策の評価結果

1 事業費及び事業量（アウトプット）による評価

（1）事業費について

第1期及び第2期の特別対策事業全体の事業費は、96ページから99ページに記載のとおり、計画額386億1,800万円に対し、実績額389億2,310万円（100.8%）と計画通りの執行状況となっています。また、第3期の事業費につきましても、100ページに記載のとおり、2年目までの累計では、計画額200億5,000万円に対し、実績額79億2609万円（39.5%）となり、計画通りに執行されています。

（2）事業量（アウトプット）について

施策が開始された平成19年度以降、平成30年度までの12年間で実施した事業量の実績は、96ページから100ページに記載のとおりであり、一部の事業や取組を除き、概ね計画通りに進捗しているものといえます。

森林関係事業では、荒廃が進んでいた私有林で重点的に森林整備を行うとともに、丹沢大山地域でのシカ管理や土壌流出防止対策、溪畔林の整備、間伐材の搬出促進など、様々な事業に取り組んでおり、事業量としては一部を除き、概ね計画通りに進捗しています。

水関係事業では、河川や地下水の保全・再生事業に関しては、概ね計画通りに進捗していますが、生活排水処理施設の整備促進事業については、計画より事業進捗が遅れているため、今後は関係市町と連携し、より一層の整備促進を図る必要があります。

水源環境保全・再生を支える取組のうち、県外上流域対策の推進については計画に基づき、概ね順調に進捗しています。なお、水環境モニタリングの実施や県民参加による水源環境保全・再生のための仕組みについても、目標値の設定はありませんが、順応的管理の考え方に基づき事業内容の見直しが図られていることや県民参加のもとで水源環境保全・再生施策を推進する仕組みが機能していることから、施策大綱の考え方に基づく施策の推進が図られていると評価します。